

指導主事計画訪問、初任者研修修了者研修 (国語、保健体育)

令和3年6月4日(金)

秋田県教育庁南教育事務所仙北出張所 指導主事

山口 晃正先生(国語)

秋田県教育庁南教育事務所 指導主事

村田留美子先生(保健体育)

をお迎えして



時間帯	内 容	担当教員		場 所
9:35~10:25	3年B組「国語」 研究授業	授業者	柴崎 理乃	3B教室
	1年B組「保健体育」 研究授業	授業者	津嶋 佳苗	陸上競技場 (雨天 体育館)
10:45~11:35	研究協議「国語」	佐藤雅、瀧澤、仲野谷、佐々敦 佐々萌、栗山、武藤、教頭		コンピュータ室
	研究協議「保健体育」	吉田、佐藤雄、田中、山内、竹和 佐藤智、竹智、校長		ミーティング ルーム



研究協議会について

令和3年6月4日(金)

10:45~11:35

【国語】 コンピュータルーム 司会:栗山 記録:武藤

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
 - (1) 授業者から 5分
 - (2) 授業についての協議 30分
 - (3) 指導助言 15分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 作成した俳句を評価し合う活動は、思いをくみ取ったり伝え合ったりする力を高めるうえで有効であったか。
- 2 生徒の、俳句を鑑賞・評価する仕方に変容があったか。

・指導者 山口 晃正 指導主事

・参加者

授業者 柴崎 理乃

佐藤雅、瀧澤、仲野谷、佐々敦、佐々萌、栗山、武藤、教頭

【保健体育】 ミーティングルーム 司会:佐藤智 記録:竹智

・研究協議次第

- 1 指導者紹介
- 2 研究協議
 - (1) 授業者から 5分
 - (2) 授業についての協議 30分
 - (3) 指導助言 15分

・授業参観・研究協議の視点

- 1 生徒にとって必要感のある課題となっていたか。
- 2 出塁、進塁する方法を見つけるための話し合いにおいて、ICT機器(PC)の活用は有効であったか。

・指導者 村田留美子 指導主事

・参加者

授業者 津嶋 佳苗

吉田、佐藤雄、田中、山内、竹和、佐藤智、竹智、校長

第3学年B組 国語科学習指導案

日 時 令和3年6月4日（金）2校時
場 所 3年B組教室
指導者 柴崎 理乃

1 単元名 言葉とともに

2 単元の見積

- (1) 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。 【知識及び技能】 (3)ウ
- (2) 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価できる。 【思考力、判断力、表現力等】 (C(1)ウ)
- (3) 詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 (C(2)イ)
- (4) 言葉がもつ価値を認識するとともに、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。 【学びに向かう力、人間性等】

3 生徒と単元

(1) 生徒について

国語について「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒は、4月時点で80.5%おり、その主な理由が「興味がある」であったことから、学習に対して前向きな姿勢をもっている集団だと言える。この学習についてのアンケートでは、「国語の学習内容への関心」で最も高かったのは「小説・物語」で74.0%。最も低かったのは「詩歌・短歌・俳句」で11.0%であった。

「小説・物語」を選んだ理由の中には「登場人物の気持ちが分かるし、面白い」「心情を想像したり、話し合ったりするのが楽しい」など、情景や心情を捉えることを楽しんでいる意見が多く見られた。

「国語の授業で困っていること」で最も多かったのは「自分の意見に自信がない」で47.0%、次いで多いのが「意見を言いたくても（書きたくても）言葉が見つからない」で21.0%であった。これらのことが、「詩歌・短歌・俳句」を選んだ生徒が少なかった理由に関係していると考えられる。特に、俳句は限られた音数の中で思いを表現しなければならず、多くの語彙が必要となる。語彙の少なさや、それによる表現力の低さが課題である。

(2) 単元について

俳句について学ぶ中で、日頃生活の中で使っている言葉に対する興味・関心を喚起したり、言葉が相手にどのように伝わるかを意識づけたりできる学習が期待できる。

「俳句の可能性」には俳句の形式や約束事の解説が書かれているため、俳句に関するおおよその知識を把握しつつ、解説文の力を借りながら読み味わうことができる。加えて「俳句を味わう」では、「俳句の可能性」で得た知識を活用して、有季定型の句から無季自由律俳句まで幅広く鑑賞することができるよう構成されている。「言葉を選ぼう」では、時代や世代による言葉の変化に注目し、実生活の場面を想定して相手への伝わり方を考えることができる。

(3) 指導にあたって

昨年度に行った「短歌に親しむ」、「短歌を味わう」の授業では、日常生活を題材に短歌を作成する活動を行った。しかし、形式・技法の確認や内容理解が主な学習となり、言葉や表現を吟味して作成するところまでは至らなかった。今回は生徒が感じている「語彙の少なさや、それによる表現力の低さ」という課題や、国語への意欲に寄り添って授業を進めていきたい。この単元では、「俳句の可能性」で基礎的な知識を確認し、「俳句を味わう」で言葉・情景・表現の工夫を通して心情や季節感をとらえることができる。これらを受けて、「言葉を選ぼう」で言葉や表現を吟味する活動を通して、思いを伝えることの楽しさを味わわせたい。また、今回はPCの「Class Notebook」の機能を活用する。作成した俳句の交流を効率的に行い、より多くの作品に触れる機会をもたせたい。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
【知】時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。	【思】①「読むこと」において文章の構成や論理の展開、表現の仕方について評価している。 【思】②詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりしている。	【主】積極的に情景をとらえ、俳句の特徴を理解したり評価したりする活動を通して、思いや考えを伝え合おうとしている。

5 単元の指導計画（総時数6 本時5／6）

時	主な学習内容	主な評価規準【観点】（方法）
1	○俳句の特徴を理解して、教科書に掲載されている俳句を読む。	○解説文を役立てながら、俳句の基本的な事項を理解している。 【知】（観察・ノート）
2	○言葉から情景を想像したり、用いられている工夫に注目したりして、教科書の俳句を鑑賞・評価する。	○言葉・情景・表現の工夫をおさえ、俳句に表されている心情や季節感をとらえながら、作品を鑑賞・評価している。 ○俳句を読んで感じたことを積極的に伝え合い、理解や評価につなげようとしている。 【思①、②】 【主】 （ワークシート1・Class Notebook）
3 4	○前時まで学んだ俳句の特徴をもとに、俳句を作成する。 ○俳句を鑑賞・評価するときの視点を生かして、自分の作品を修正する。	○教科書の俳句を鑑賞・評価した時の視点を、自身の俳句の工夫として活用している。 ○作成した俳句をグループの中で評価し合い、より自分の思いが伝わる作品を目指して推敲している。 【思②】（ワークシート2）
5 本時	○句会の中で互いの作品を評価・交流する。	○言葉・情景・表現の工夫に注目して評価し、語り手の思いや俳句から受けた印象を交流することで、鑑賞・評価の視点を確かなものにしていく。 【思②】（ワークシート2）
6	○話す相手や場面を変えながら、伝わりやすい言葉を選ぶ。	○時代や世代の違いによる言葉の変化を理解し、相手や場面に応じて表現を工夫している。 ○俳句の学習と関連付けながら、相手に伝わる言葉選びをしようとしている。 【知】 【主】 （ノート・Class Notebook）

6 本時（5／6）

○本時のねらい

言葉の一つ一つや表現の工夫に注目して、俳句に込められた思いを読み味わうことができる。

段階 時間	学習活動	形態	指導の手立て 評価規準【観点】（方法）
導入 7	1 俳句を詠んだり作ったりしたときに意識したことを確認し、めあてにつなげる。	全体	・Class Notebookを見て、評価の視点を思い出させる。
	情景や言葉、表現の工夫に注目して、作品を読み味わう。		
展開 3 7	2 4～5句の俳句を読み、そのうち最もよいと思った作品を一つ選ぶ。	ONE タイム	・あらかじめClass Notebookのグループを作成し、4～5句の俳句を配付しておく。4～5の俳句には自分の作品を含まない。自分以外の作品を評価させる。 ・俳句を選んだ根拠を書かせる。
	3 (1) 選んだ俳句を持ち寄り、そのよさを話し合う。 (2) グループの中で、全体に紹介したい俳句を決める。	ONE チーム	・「言葉」「情景」「表現の工夫」に注目して評価することを、話し合い活動の中で随時助言する。
	4 話し合いの結果を報告する。	全体	・各グループで選ばれた俳句の作者を紹介し、自己肯定感を高めることにつなげる。
まとめ 6	5 本時を振り返る。	個人	・初めて俳句を鑑賞・評価したときと比較させる。 俳句に用いられている言葉や表現の工夫、情景を根拠によさを分析し、その交流を通して読みを深めている。 【思②】（ワークシート）

ONE タイム：自力思考の時間

ONE チーム：学級全体で考えを共有したり考えたりする時間

○協議の視点

- ・作成した俳句を評価し合う活動は、思いをくみ取ったり伝え合ったりする力を高めるうえで有効であったか。
- ・生徒の、俳句を鑑賞・評価する仕方に変容があったか。

第1学年B組 保健体育科学習指導案

日 時 令和3年6月4日(金) 2校時
場 所 陸上競技場(雨天時 体育館)
指導者 津嶋 佳苗

1 単元名 球技 ベースボール型 ソフトボール

2 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる運動などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができる。【知識及び技能】(ウ)
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を支援しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力、人間性等】

3 生徒と単元

(1) 生徒について

保健体育について「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒は、4月時点で90.0%おり、その主な理由が「興味がある」、「社会や生活のなかで役立つ」であったことから、学習に対して前向きな姿勢をもっている集団だと言える。

一方で、球技に関する事前のアンケートでは、球技を「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒が20.0%、ソフトボールを「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒が45.0%いた。その理由には「やったことがない」、「ルールを知らない」などが挙げられた。小学校の学習では小学2年生でキックベースボールを数回行った経験があるが、それ以降はベースボール型の運動を行っていない。これらのことから、ベースボール型のゲームの経験の少なさが課題であると考えられる。

(2) 単元について

本単元は学習指導要領の体育分野「E 球技」ウ ベースボール型、ソフトボールである。中学校第1学年及び2学年では「攻撃を重視し、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにすること」がねらいとされている。1年次においては「基本的なバット操作とボール操作、定位置での守備によって攻防すること」を中心に取り組むことで、ベースボール型の楽しさを実感できることが期待される。

(3) 指導にあたって

ソフトボールは、身体やバットの操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの点数を競い合うのが特徴的で、仲間と協力する素晴らしさや助け合いの精神なども学ぶことができる。しかし、バットやボールの操作が大変難しく、苦手と感じる生徒にとって、ゲームを楽しめるようになるにはハードルが高い種目でもある。

生徒の苦手意識を減らすために、プレイヤーの人数、グラウンドの広さ、用具、プレイ上の制限を工夫して技能の獲得を図り、互いに上達を認め合うことや攻防のコツを考えて伝え合う機会を設定することで、不得意と感じている生徒の意識を変容させることができると考える。また、アンケートを活用して、生徒自身ができるようになりたいことと指導内容との関連させながら、必要感のある課題を設定し、積極的にソフトボールに取り組む姿勢を育てたい。学び合いでは生徒同士の

やりとりが活発になるように、PCで手本となる動画を見たり、自分たちの動きを撮影して確認したりすることや、グループでの話合いの内容を Teams の Class Notebook で共有するなど、メディアポートフォリオとして有効に活用する。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【知①】勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性、技術の名称や行い方を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開している。</p> <p>【知②】基本的なバット操作と走塁操作での攻撃、ボール操作と定位置での守備によって攻防している。</p>	<p>【思】攻防などの自己の課題を発見し、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p>	<p>【主①】球技に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【主②】仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>【主③】健康・安全に気を配っている。</p>

5 単元の指導計画(総時数10 本時5/10)

時	主な学習内容	主な評価規準【観点】(方法)
1	○運動の特性や学習のねらい、計画、内容を理解する。	・ソフトボールにおけるポジションや技術の名称、基本的なルールについて理解している。【知①】(テスト)
2	○基本的なボール操作とバット操作のコツをつかむ。	・ボールの正面に回り込んで緩い打球を捕ったり、トスを打ち返したりしている。【知②】(観察)
3		・安全に留意して練習している。【主③】(観察)
4	○基本的なバット操作を身に付け、ゲームを楽しむ。	・地面と水平になるようにバットを振り抜いている。【知②】(観察)
5 本時		・出塁、進塁するにはどこにボールを打てばよいかポイントを見つけている。【思】(ワークシート、観察)
6	○守備のボール操作を身に付け、ポジションや役割に応じた動きでゲームを楽しむ。	・相手に点を与えないためにはどこにポジショニングすればよいかポイントを見つけている。【思】(学習カード)
7		・ボールの落下地点に移動して捕球したり、守備位置から塁上へ移動して送球を受けたりしている。【知②】(観察)
8	○ルールを工夫した試合を楽しむ。	・自分たちの決めたルールを守り、互いに助言して、仲間の学習を援助しようとしている。【主①②】(観察)
9		・基本的なバット操作とボール操作を身につけている。【知②】(観察)
10	○単元末テスト	・ソフトボールにおけるポジションや技術の名称、基本的なルールについて理解している。【知①】(テスト)

6 本時の学習（本時5／10時間）

(1) 本時のねらい

出塁、進塁するにはどこにボールを打てばよいかポイントを見つけることができる。
(思考・判断・表現)

(2) 学習過程

段階 時間	学習活動	形態	指導の手立て 評価規準【観点】（方法）
導 入 6	1 学習課題を確認する	全体	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">出塁、進塁するにはどこにボールを打てばよいか</div>
	2 予想する	ONE タイム	
展 開 3.9	3 学習のプログラムを確認する 「三角ベース」と「データ撮影」	全体	・チーム全体の動きが確認できる撮影場所を指定する。
	4 スキルアップドリルを行う ローテーションキャッチボール ① オーバーハンドスロー ② フライ ③ ゴロ	グループ	・ゲーム性をもたせた運動を取り入れ、意欲をもたせる。
	5 タスクゲーム【三角ベース】を行う ・2コートで、ゲームを行う。5人打ったら攻守交代。 ・バッティングは仲間からのトスで行う。 ・バットかラケットのどちらかを選択する。	全体	・学習課題を意識してゲームを行えるように、グループ間をまわって声掛けをする。
	6 課題について話し合う ① 個の考えをワークシートに書く ② チームで話し合う ③ チームで話し合ったことを学級全体で共有する	ONE タイム ↓ ONE チーム ↓ 全体	・自分の考えを書けない生徒には、自分の予想と実際に行ったプレーとを比較するように助言し、考えを書けるようにする。 ・話し合いが活発に行われるように、各グループのキャプテン（野球部）が進行役になるよう指示し、タブレットの映像も活用するように助言する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">出塁、進塁するにはどこにボールを打てばよいかポイントを見つけている。【思】 (ワークシート、観察)</div>
ま と め 5	7 本時のまとめをする 課題について振り返る	個人 ↓ 全体	・学習カードに本時の成果や今後の課題を記入させる。 ・本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもてるように学習内容について確認する。

ONE タイム：自力思考の時間

ONE チーム：学級全体で考えを共有したり考えたりする時間

○協議の視点

- ・生徒にとって必要感のある課題となっていたか。
- ・出塁、進塁する方法を見つけるための話し合いにおいて、ICT

